



重富小学校 学校便り

剣の平

令和6年度 7月号
創立136周年

(重富小HPアドレス)
<http://www12.synapse.ne.jp/sigetomisyo/>

学校
教育
目標

「剣の平」に誓う
光り輝く重富の子

学校
キャッチフレーズ

Well-beingな学校

故郷を思う気持ち

「剣の平」



校長 平 千力

子供たちが今日も元気に校庭で、裏山で遊んでいます。特に最近、裏山で遊ぶ子供たちが増えてきました。虫取り、池の生物の観察、鬼ごっこ、かくれんぼ。高学年の子供たちは、掃除、整備。少年団の子供たちも裏山を活用して体力づくり・・・。

裏山には植物や昆虫がたくさんいます。遊び道具は自然の中にあります。それぞれで遊びを工夫したり、遊びを生み出したりしているようです。

まさに、重富小学校での原体験です。きっと、大人になったときに、重富小学校の思い出として残っていくのではないかなと思っています。

私は、今月初め、理科教育の関係で奄美大島に行く機会がありました。奄美大島は私の故郷です。理科の研修会でしたので、話題は、植物や動物、海洋生物、気候等であつたりします。協議が深まる中で、幼い頃の体験がよみがえり、なんとも言えない気持ちになりました。小学生の頃、亡き父と一緒に田植えをしたこと、畑を耕したこと、母と一緒に海に行つて貝やアオサを採つたこと、友達と一緒に山に「しいのみ」をとりに行つてハブに出会つたこと、その「しいのみ」を友達と煎つて食べたこと、友達と日が暮れるまで泳いだ海岸線など・・・。私にとってはこの経験そのものが故郷です。協議をしている中で、そのときの色や匂い、気温、天気など、一瞬でよみがえつてきました。そのときは、「暑い」「臭い」「汚れた」と思っていました。今となつては、そのことが良い思い出になっています。これこそ原体験だと思ひます。

奄美大島は、ほとんど海と山です。街はありますが、そんなに大きな街ではありません。そんな田舎ですが、この原体験があるので私にとっては、大好きな場所です。だから、私は、どこへ行つても故郷のことは自信をもって話すことができます。

誰にとつても故郷はあります。体験が多ければ多いほど、思い出が深ければ深いほど故郷への思いは強くなると思ひます。

そう考えると、私はなんとしても重富小学校の裏山を活用したいと思ひています。重富小学校で学んだ証、重富小学校で遊んだ証、それが裏山に詰まっていると思ひています。

大人になったとき、たとえ県外に出ることになつても、その地で重富のことを自信をもって話すことができる人になつてほしいと思ひます。そして、始良市のために重富のために頑張ることのできる人になつてほしいと思ひています。

そう考えながら、毎日、草刈りをしております。

裏山で遊んだ思い出を、生き生きと話すことができるように・・・。